平成 28 年度

上宮中学・高等学校

学校評価

－学校自己評価書－

UENOMIYA

目　　次

（頁）

Ⅰ　上宮中学・高等学校の教育理念　…　2

A　建学の精神（mission）

B　教育目標（vision）

Ⅱ　学校評価のあり方　…　3

Ⅲ　各分掌における評価項目と自己評価

①教科　…　4

②学年　…　14

③コース　…　23

④進路指導　…　27

⑤教務　…　31

⑥生活指導　…　37

⑦入試対策　…　38

⑧保健管理　…　40

⑨教育相談　…　41

⑩データ処理　…　43

⑪生徒会　…　44

⑫人権教育　…　45

⑬図書・視聴覚教育　…　46

Ⅰ　上宮中学・高等学校の教育理念

Ａ　建学の精神（mission）

本学園は浄土宗を母体とし，法然上人の仏教精神を教育理念の根底におき，知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育を目標に「上宮教育」を推進し，実践する学校である。

校訓「正思明行」は，仏教の八正道における正思惟に由来し，中学生・高校生として生徒一人一人が，自らの思惟によって，児童期にありがちであった自己中心的な身勝手な考え方の誤りを明らかなものにし，正していくことによって自らを成長させ，青年として自信を持って主体的に行動することを説いている。また，学順「一，掃除・二，勤行・三，学問」とは，浄土宗の『住持訓』に倣うものであって，掃除とは文字通り身辺の環境美化を意図するとともに，学ぶ心の準備を意味する。勤行とは学業に専念し精進努力することの価値を説き，それは単なる成果主義の否定でもある。学問は授業そのものに止まらず，人として正しい生き方，つまり，人倫を学ぶことである。掃除と勤行を学問より先に掲げるのは，成績至上主義に陥ることへの戒めであり，学順はその重要性において並列の関係にある。

Ｂ　教育目標（vision）

上宮中学・高等学校の教育目標は建学の精神に基づき，法然上人が説かれた人倫と仏の慈悲の精神を多くの若者に分け与えることである。

時代の波が変化しても，建学の精神をもって人間道の目的理想を見つめる正真の眼を育て，また，理想に向かって励み進む剛健の足を育てることが本校の使命である。

教育の三本柱は「知・徳・体」の育成であるが，「上宮教育」はこの三本柱のバランスを重視している。その中でも，知・体に偏らず，他校ではできない心の教育の実践を目標とする。それは知識・学力の向上だけではなく，総合的な人間力を向上させる教育である。長い人生の礎を築くことこそが学校本来の役割であり，上宮の本旨である。

Ⅱ　上宮中学・高等学校の学校評価のあり方

2007 年の改正学校教育法において，学校評価の実施・公表に関する規定が整備された。それには１年間の学校の取組を振り返り，自校のよさや特色，生徒の成長等を確認し，より一層の充実に向けて改善の方向を明確にするために実施することが記されている。また，評価結果を外部に公表し，保護者や地域の人々に生徒の成長・教職員の努力等を理解してもらい，学校への信頼を確かなものにしてもらうことが謳われている。

本校には「上宮中学・高等学校の基本理念と学校方針」があり，上宮教育の根となる「建学の精神」，茎となる「教育目標」，そして枝，葉となる「戦略・戦術」，「計画」が説かれている。上宮教育において，根と幹は揺るぎないものである。

各分掌・組織は「建学の精神」と「教育目標」を基礎としながら，有効な手段を用いて上宮教育を推進・発展させていく必要がある。そのため，年度毎に各分掌・各組織の現状を把握・認識し，自ら評価を下し，その反省の基に新たな課題と目標の設定を行わなければならない。この作業は本校の「戦略・戦術」の構築と実践であり，将来を見据えた「計画」のもとに行われるものである。それは上宮という木に光を当て，根や幹に栄養分を送るという重要な役割を果たすことになる。すなわち，枝振り（枝葉）はこの先に形を変えながらも，太く逞しい根や幹をもつ上宮という木を育てるのである。これが本校の学校方針である。したがって，本校にとって学校自己評価とは，「戦略・戦術」の構築・実践・改定を世に明らかにするものと捉えられる。

我々はこの作業において各分掌･組織のあり方を認識し，その中における自己の役割を認識する。それは教育職としてのスキルアップへと発展すべきものである。今後，我々は上宮のあるべき姿，すなわち未来を共通に認識することで，「個」の力を「組織」の力に変えていくのである。

Ⅲ　各分掌における自己評価

①教科

平成２８年度教科（　国語科　）　　評価責任者名（　柳本　晴生　）

分掌目標	国語力―コースの目標に応じた入試に対応できる力だけではなく、生涯を通して生きる力の基礎となるもの―の充実	
重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
①　・基本的国語力の充実を図る。 ・授業の厳正化を図る。	B	基礎力の充実がある程度図られたことは、入試結果に反映されていると思われる。学年・コースによっては、残念ながら満足いく結果にはなっていなかった。
①　学力推移調査・模擬試験の全体把握 ・結果分析と対応策の検討。	B	各先生方で、それぞれ個別に対応してもらえている。
②　教科会の活性化 ・情報の共有　→　定例化	B	月１回のペースで実施した。
③　補講習の充実 ・全教員（専任・常勤・非常勤）が全学年で実施 ・コースの教育プランに基づいた（コースからの要請のあった）補講習が実施できるよう取り組む。	B	全コースにおいて、コースから要望のあった補講習は実施できたと思われる。
④　漢字検定・日本語検定の対策と活用 ・生徒への広報の徹底 ・漢検において、過去問に対して積極的な取り組みを促すことにより、合格率の向上を図る。	B	漢字検定・日本語検定の生徒への広報は徹底された。 漢検受検の前に過去問を解くなどの対応もしっかりできた。
⑤　教育プランとシラバスの改訂 ・前年度作成した〈教育プラン〉と〈シラバス〉を、現状に合わせて改訂していく。	B	２９年度に向けて、必要な個所は改訂できた。

分掌名（　　社会科　　）　　評価責任者名（　　上　田　達　哉　　）

分掌目標	・ コース別（受験形態別）指導の確立

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
①　学力推進プランの検討について ・現状分析（授業内容を含め） ・３ヵ年及び６ヵ年における コース別推進プランの検討 ・高大連携を踏まえたプランの検討	A	各コースの特性に合わせて、各教科の学力推進プランを検討できたように思う。 また高大連携に合わせた指導も充実できていたように思う。
②　定期考査、模試の利用と活用について ・具体的な目標値の設定 ・分析と検討・対策 ・生徒指導への活用	B	各科目ごとに定期考査の分析・検討がなされていたように思うが、コースの細分化により生徒指導の徹底にはムラがあったように思う。
③　シラバスの検討について ・学力推進に基づき、３ヵ年・６ヵ年 それぞれのシラバスについて授業を 展開しながら検討する	B	おおむねできていたように思う。
④　教科会について ・教科会への全員参加 ・会議の定例化 ・教員間における情報の共有化	B	定期的な教科会は実施できたが、内容の充実には不十分であるように感じた。教員同士の研鑽の場として教科会を実施していきたい。
④　補習・講習について ・各コースの特性を考えての実施 ・実施内容の検討 ・学年・コースを超えた講習の実施	B	科目によって少しむらはあったが、おおむ 実施できていたように思う。

（　　数学科　　）　　評価責任者名（　横道　俊宏　）

分掌目標	・ コースに応じた学習プランを作り学習効果を挙げる

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
⑤　学力推進プランの作成について ・現状分析（授業内容を含め） ・３ヵ年及び６ヵ年における コース別推進プランの作成 ・高大連携を踏まえたプランの作成	B	４月の段階でだいたいの年間計画は立てられるが、年度により生徒の能力に差があり計画通り進むことができない。
⑥　定期考査、模試の利用と活用について ・具体的な目標値の設定 ・分析と検討・対策 ・生徒指導への活用	B	教科書は終了することで精いっぱいでなかなか模擬試験対策までの授業が展開できない。
⑦　シラバスの作成について ・学力推進に基づき、３ヵ年・６ヵ年 それぞれのシラバス作成	B	各先生方の協力によりある程度のものができあがった。あとは実践に基づき改良していきたい。
④　教科会について ・教科会への全員参加 ・会議の定例化 ・教員間における情報の共有化	B	各先生方は講習、その他の公務を優先されているので、全員参加教科会が開けていないのが現状である。
⑤　補習・講習について ・全学年、各コースでの実施 ・実施内容の検討 ・学年・コースを超えた講習の実施	B	どの先生も積極的に普段の講習はもとより、休暇中の講習もしていただき効果はでていると思います。

分掌名（①教科　　理　科　　）　　評価責任者名（　教科主任　　宮　本　　謙　　）

分掌目標	理科の教員間での情報の共有化をはかる。 授業の充実をはかる（実験も出来うる限り取り入れる）。

評 価 項 目	評価	課 題
①教育プランの作成に向けて （作成にあたり配慮すべき事項） ・現状の問題点の把握 ・新学習指導要領「理数教育の充実」をはかる ・各コースの特色をいかす ・模擬試験等の活用を図ること ・生活適応力の養成を心掛けること ・教員の仕事の分担を配慮すること	B	昨年度分の再検討をするにとどまっている。
②シラバスの作成に向けて （作成にあたり配慮すべき事項） ・教育プランを基にすること ・授業担当者間で相談し、弾力的に運用する	A	授業進度・深度について、各学年・各科目担当者間での連絡は密にとり、検討できている。
③模擬試験等の結果把握に向けて ・試験問題の結果等の分析と対応の検討	B	各担当者で実施している。
④教科会・情報交換会の活性化に向けて ・各学年・各科目担当者間の連絡を密にする ・会議・打ち合わせ内容の徹底	A	定例的に教科会は実施した。
⑤補講習の充実に向けて ・補講習実施を前提とした授業の配当 ・補講習内容の検討 ・補講習が効果的に実施できるシステム作り	B	７時間目の講習は、高３英数コース・パワーコースの物理・生物だけになったので、本来の講習を充実させていきたい。
⑥教員の教育力向上に向けて ・各種研修会への積極的参加	C	授業や担任業務のため、なかなか出張に出れないのが現状である。
⑦授業の充実に向けて ・生徒の意識付け ・基礎学力の定着 ・応用 ・授業内容に最新科学情報の盛り込み	B	各科目で授業ノートをつくり、授業内容を統一するようにしている。少しずつではあるが、成果は出てきていると思う。
⑧実験授業の充実に向けて ・実験設備の管理計画の立案	B	授業内容やコースにもよるが、積極的に取り組んでいる。
⑨人権意識の涵養に向けて ・障害者等に対する配慮する（光、音、遺伝等）	A	授業時の表現には、細心の注意を払っている。
⑩28年度以降のカリキュラム変更について ・高２，３学年の英数文系、パワー文系における化学基礎と地学基礎の選択について。	A	平成28年度入学生から、化学基礎と地学基礎の選択ができるようになった。

（　保健体育科　）　　評価責任者名（　吉川　博士　）

分掌目標	生涯にわたって健康で明るく豊かな生活を送るためにスポーツに継続的に親しむ態度を育てる。また、規律ある態度を育てる。	
重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
選択体育の内容の充実と研究	B	選択授業を導入してから、年数を重ね、創意工夫が見られ、各種目において内容の充実研究が進んでいるように見られる。
中学、高校の授業内容の連携とシステムの構築	C	中学校では、人数も少なく、柔軟な対応で多くの種目を経験できるように工夫されているが高校では授業の場所等の問題から、種目の実施には限界が感じられる
規律ある態度の育成と活気のある授業を目指す。 自主的に授業に参加する態度を育てる	C	授業に参加する自主的な態度は学年が進み深度が進むと成長が見られるが、早い段階からの成長にはまだまだ、工夫が必要の様に思われる。
体力・スキル・礼儀作法の向上。 生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を育てる。	B	教員が各専門の種目を担当し、授業を進めるため、ゲーム主体の時期になればスキル向上スポーツを楽しむ態度が達成されているように思われる。
教員の資質向上 ○　教材研究の徹底。 ○　教員間の情報交換。 ○　研究会・講習会への積極的参加。	C	教材研究等は専門種目のため常に向上されているが、講習会、研究会等の参加はなかなか行われていない。今後は継続して参加できるように進めていく。
選択体育の内容の充実と研究	B	選択授業を導入してから、年数を重ね、創意工夫が見られ、各種目において内容の充実研究が進んでいるように見られる。

分掌名（　英語科　）　　評価責任者名（　河島　訓彦　）

分掌目標	英語力向上への取り組みと大学入試改革及びアクティブラーニングの情報収集及び模索	
重　点　課　題	評価	成　果　と　課 題
基礎学力の向上と外国文化理解 正しい発音の認識と音読指導 英語に対する興味付け 単語テスト・既習事項の確認テストの充実 宿題・課題・補習の充実 教科書の本文だけではなく、それにまつわる話題の導入や、修学旅行の事前学習	C	○各担当者が授業において音声教材を使い、正しい発音の認識と音声指導を行った。 また小テストを通じ、単語や既習事項の確認を実施した。
資格試験の情報を提供する。 GTEC・TOEIC の指導 Step Up ノートの事前配布や、事前学習 英検の情報提供	C	○G テック受検を 2 回実施し、Step Up ノートを早めに配布した。 ○多くの生徒が英語圏手を受検し、そのための面接練習や講習も実施された。
大学入試改革・「新テスト」の情報収集 H27 入学中学 1 年の大学入試時より導入予定の「新テスト」の英語についての情報収集とその共有化	D	○「新テスト」の情報が具体的に発表されず、手探りの状態が続いている。
アクティブラーニング導入への模索 アクティブラーニング導入に向けての常用収集と研究 アクティブラーニングの導入に向けた模索と実践報告の共有化	D	○各担当者がそれぞれに取り組もうと努力しているが、こなしていく内容と時間数との兼ね合いから、生徒に時間を与えることが難しいことも多く、手探り状態が続いている。
教員間における情報の共有化とその利用 教科内の教員、担当者同士など 教員間の情報共有・対話の充実 共有化した情報の利用	C	○共有フォルダの利用や、ほぼ月 1 度の教科会議を持つことで、教科内の対話や情報の共有化を実施した。

分掌名（　芸術科　）　　評価責任者名（　堀田泰彦　）

分掌目標	個性豊かな表現と、鑑賞の能力を伸ばし、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	
重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
芸術を親しみそれを愛好する心情を伸ばすようにする	B	高校１年次のみの実施のため、基礎的内容から、それを活かした応用へ移ることが難しいので、工夫が必要である。
芸術への関心を高めるよう内容を構築する（生徒の制作意欲を高める工夫をする。）	B	生徒の創作意欲の湧くような内容を検討していく必要がある。
表現及び鑑賞の能力を高める指導の充実を図る	B	制作などに時間をほとんど費やすため、鑑賞の時間をつくる工夫が必要である。（１年間の実施のなかで、いろいろ対応しなければならないことが多く、難しさを感じる。）
教科会の活性化及び各学年コース・中高担当者同士の情報交換の活発化	A	情報交換は出来ていると思う。
各担当者の授業の実施方法について 教科内の連携を図る	A	各科目の担当者どうしでの連携は、概ねとれていると思う。
共学化により、指導上において男女生徒への指導の仕方に差が出ないよう注意する。	A	概ね出来ていると思われる。
その他　評価について	A	各教科にて共通の５段階の評価基準を設けることが出来た。

分掌名（　情報科　）　　評価責任者名（　池田　竜司　）

分掌目標	授業で生徒のプレゼン能力の育成を図る指導をする。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課 題
生徒のコンピュータのスキルが向上するように指導する。	A	入学してくる生徒のスキル、知識とも片寄っているが、情報科の指導でスキル、知識とも向上している。
情報モラルの指導を徹底する。	B	近年スマートフォンによるＳＮＳなどの問題が多数発生し、情報モラルの指導は多くの時間をとって指導しているが、家庭での教育も必要であり、保護者への講習等も必要である。
生徒のプレゼン能力の育成を授業内で行う。	A	授業でプレゼンをさせる機会をなるべく多くとり、生徒はプレゼンの経験をすることにって自己表現が豊かになった。班ごとに教員からコメントを手書きするなどきめ細かな指導が出来た。
詳細な年間指導計画を作成する。	B	例年通り詳細な年間計画を立てることが出来た。
教科内の連携の強化を図る。	B	個々の教員に制約があり、教科内で連携をとり、指導内容、授業進度などの打ち合わせを十分行うことが出来たとは言えない。

分掌名（宗教科）　　評価責任者名（神田　眞雄）

分掌目標	宗教の授業で「釈尊」や学校祖「法然上人」などの宗教的偉人の生涯とその思想を学び、宗教行事（合掌の姿勢・態度）を通じて宗教情操の涵養に努める。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
1、各学年における授業内容の検討 ○　授業の進め方の協議 ○　授業内容及び進捗状況の連絡	A	授業の進め方：頻繁に協議する機会は少なかったが、概ね年度頭書の打ち合わせどおりに進められたと思う。進捗状況：授業担当者同士が互いに把握できたように思われる。
2、教材研究 ○　参考資料の検討 ○　教材プリントの作成 ○　教授資料の共有	B	参考資料：担当者が各自工夫。 教材プリント：担当者が各自工夫。 資料の共有：学年及び単元によって共有する資料の数量は変わってくる。概ね良好。
3、宗教行事について ○　宗教行事における事前指導 ○　行事関係部署との連絡・協議	A	事前指導：関係部署の御協力で納得のいく指導が出来たように感じる。本校の宗教行事は他校より少ないが、行事数を増やすより、その質を上げて行きたい。
4、教科会の開催 ○　月１回程度の定期的な開催 ○　教科内での意見交換・情報交換	A	月１の教科会：理想的ではあるが、実際は困難である。情報交換：思っている以上に新鮮な情報を持っていることが多々ある。次回は意見・情報交換を活発に行いたい。
5、宗教教育と道徳教育 ○　宗教教育と道徳教育についての研究 ○　宗教教育と道徳教育の実践・推進についての検討	A	本校は宗教教育を行っているのであり、今さら道徳教育に光を当てるつもりはない。あくまでも宗教の中の道徳面について教化していくのみである。
6、老人福祉体験学習 ○　実施施設との連絡・協議 ○　学習内容の検討	A	施設との連絡・協議：実施施設と本校の関係は良くすべて遺漏なく実施できた。学習内容は実施施設のおかげで年々改良されている。
7、ボランティア活動への参加 ○　ボランティア情報の把握・収集 ○　災害などの募金活動 ○　寺院・地域への奉仕活動	C	ボランティア活動への参加は、ほとんど実施することができなかった。老人福祉体験学習をいかにボランティア活動に繋げるかが今後の課題として残っている。
8、宗教関係学校との情報交換 ○　宗門関係学校との研究会 ○　仏教関係学校との行事	A	宗門校：宗教情操教育研究会での意見交換も活発におこなっている。 仏教関係校：「花まつり」の行事を中心として関係学校と活発に情報交換ができている。

分掌名（　技術・家庭科　　）　　評価責任者名（　　結城　薫子　　）

分掌目標	生活に必要な基礎の知識を確立し、生活の自立が出来るように指導する。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
生徒がより理解できるように授業内容を検討する	B	今年度も生徒が理解しやすいように，教科書や授業での説明で不足するようなところはプリントで補うなどの工夫をした。
教科内で情報共有，連帯強化出来るよう教科会の開催頻度を増やす	C	非常勤の先生方の出講日がなかなか揃わないので教科会の開催が難しかった。
男女共学での授業の進め方や、指導の仕方で差が出ないように注意する	A	おおむね目標を達成できたと思う。
教員の教育力向上に向けて研修会等への積極的な参加	C	渉外の仕事が忙しく，なかなか研修会に参加出来なかった。
実習授業の取り入れに向けて受け入れ施設等の検討	C	受け入れ先を探したが良い返事がもらえなかったり，コスト面で無理だった。

②学年

分掌名（　　高校３年　　）　　評価責任者名（　　筆保　晃一　　）

分掌目標	生徒一人ひとりに寄り添い、生徒一人ひとりの進路保障をしっかりと確立。その視点からの生徒指導と進路指導を実践する。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
①　学年目標の設定 ・学校の教育理念　校訓「正思明行」の具体化 ・学順「一に掃除（心身の保健衛生・整頓済美） 二に勤行（勤労愛好と業務精進） 三に学問（智慧を完成する学問解明）の実践 特に教室の清掃については日々実践の事	B	各担任、学年団の教員がそれぞれの資質を充分に発揮し、実践できたと思われる。
②　年間行事予定 ・高３オリエンテーション ・保護者対象説明会と学級懇談会 ・コースごとの生徒対象進路説明会 ・卒業式	B	各コースの特性に応じた説明会が実施された。 保護者との対応には受験を前提としての配慮が必要であると感じた。
③　学年運営及び学年会の活性に向けて ・学年会検討事項の事前伝達 ・各コース間の連携 ・各大学の説明会への参加分担	C	学年会を開く機会をあまり持てず、コース間の連携が円滑に行われなかった。 大学説明会へは積極的に参加していただいた。
④　補習・講習に関して ・放課後の補習講習の計画立案 ・夏期休暇前後の補習講習の計画立案 ・冬期休暇前の補習講習の計画立案	B	各コースで放課後、夏期・冬期休暇前に講習を実施し、多数の生徒が参加し効果があったと思う。
⑤　生活指導に関して ・基本的生活習慣の徹底 ・勤惰状況の把握 ・「事故」未然防止の指導 ・生活指導部との連携 頭髪一斉指導への協力 ・配慮を要する生徒への積極的な関わり ・全教員が共通認識を持って指導にあたる。	B	概ね良好であった。頭髪一斉指導の際は、生活指導部だけでなく担任も協力すべきである。 図書館・保健室登校の生徒に対しては、常に関わりを持ち、学習に遅れを生じないようにする必要がある・

⑥　進路指導に関して ・進路指導部との連携 　指定校推薦、高大連携入試と AO 入試、公募制推薦についての生徒の理解を得る（しっかりと理解したうえで受験に臨ませる） ・一般入試は後期入試まで諦めさせない。	A	進路指導部を中心にきめ細かい指導を実施しその成果が出たと思う。 特に、国立大学推薦入試への取り組みを今後も積極的に進めていくことが進学実績の向上につながるのではないかと考えられる。
⑦　学習成績の向上へ向けて ・各コースの特色が生かせる学習指導 　プレップ文系 　プレップ理系 　技能 　英数文系 　英数理系 　パワー文系 　パワー理系 　一貫特進文系 　一貫特進理系 　一貫プレップ文系 　一貫プレップ理系 ・個人懇談及び三者懇談の実施 ・進路指導ＬＨＲでの積極的クラス運営 ・模試成績の結果分析会への参加 ・成績不振生徒及び保護者の召喚 ・成績不振生徒への指導	B	各コースとも教科担当者の指導により、成績の向上がみられた。 担任の個別懇談（二者）で学習状況・進路について把握し、指導出来ていたと思われる。 成績不振者については、その都度教科担当者による指導を行った。 模擬試験の分析は、コース別に実施した。 プレップコースにつては、不十分であったので、改善していく必要がある。

分掌名（　高校２年　）　　評価責任者名（　柴田　明洋　）

分掌目標	生徒一人ひとりと向き合った生活指導と学習指導及び進路指導の充実。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
①　学年目標の設定 ・学校の教育理念、教育目標の具体化 ・生徒の主体性を培う	B	おおむね達成できた。
②　年間行事予定の作成と実行 ・生徒対象進路説明会 ・保護者対象進路説明会 ・夏期休暇前後の補講習及び合宿 ・冬期休暇前の補講習 ・春期休暇前の補講習 ・成績不振者の召喚と指導	B	おおむね達成できた
③　学年会の活性化に向けて ・検討事項の事前伝達 ・資料の事前配布 ・会議日、時間の設定 ・生徒への配布物を各担任へ配布	A	達成できた。
④　生活指導 ・生活指導部との連携 ・頭髪一斉指導への協力 ・謹慎申し渡し及び解除への出席 ・基本的生活習慣の徹底	A	生活指導との連携も良く生徒指導はスムーズにできた。
⑤　学習指導 ・計画的な補講習の設定 ・継続的な補講習の実施 ・専任教員の重点配当 ・補講習が効果的に実施できるシステム作り ・補講習実施者への手当の支給 ・小テストの実施 ・成績不振者の対応	B	プレップ文系の補講習は学期を追うごとに人数が減少し学習意欲がに継続性が保てらなく学習習慣の低下が感じられた。
⑥　進路指導 ・進路指導部との連携 ・模試の過去問題の印刷 ・模試の結果分析 ・学力向上へ向けての検討 ・個人面談、三者懇談の実施	B	各コースの特色を出しながらおおむね達成できた。

・高大連携に関わって 大学見学会の実施 推薦基準値の設定 ・各コースの特色が生かせる学習指導 プレップ文系 プレップ理系 プレップ技能 英数文系 英数理系 パワー文系 パワー理系 一貫特進文系 一貫特進理系 一貫プレップ文系 一貫プレップ理系		
⑦　修学旅行 ・生徒対象事前修学旅行説明会 ・保護者対象事前修学旅行説明会 ・業者との打ち合わせ ・収支決算報告	A	今年はヨーロッパの情勢悪化のため急きょオーストラリアへ変更。7月の下見～実施まで過密なスケジュールであったが無事に終了することができた。

分掌名（　高校１年　）　　評価責任者名（　　仲谷　達幸　　）

分掌目標	生徒一人一人の個性を尊重し、学習指導・進路指導・生活指導などを中心にしっかりと確立し、実践していく。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
1　学年目標の設定 ・学校の教育理念　校訓の具体化 ・学順の実践　「教室の清掃は日々の実践」	A	全体としては行き届いたと感じている。 清掃は、年当初担任は一緒にする旨を徹底し いるので実践されたと思う。
2　年間行事予定の実践 ・コース別行事の実施 ・生徒、保護者対象の各種説明会の実施 ・学級懇談会の実施	A	生徒・保護者とも説明会での内容を充分に理解 し、進路等にいかせたと感じている。
3　学年運営及び学年会の活性化 ・各担任との連携を計る ・配布物は各担任への事前連絡と配布 ・学年会（資料）の事前伝達 ・各コースの主任との連携	A	学年会をもつのに講習等がほぼ毎日あるため、 難しい。 コース間の連携は、職員室内で可能であったの で良かったように思う。
4　補習・講習について ・放課後の補講習の実施（技能コースを除く） ・期末考査後の補講習の実施	A	全コース（技能は除く）において教員が積極的 に企画・実施していただき、充実し補講習が出 来た。
5　生活指導について ・基本的生活習慣の確立 ・勤惰状況の把握 ・「事故」の未然防止の指導（自己防衛） ・生活指導部との連携 　頭髪一斉指導への協力 　謹慎申し渡し及び解除への出席 　謹慎生徒への指導 ・配慮を要する生徒への積極的な関わり ・全教員が共通認識を持って指導にあたる	A	生活指導面では、SNS 関係が 2 件あり、学校全 体で増加傾向にある。暴力行為が 1 件あり、い じめに関係している。カンニング行為が 2 件あ りました。 生活指導部との連携は、生活指導部会議に出 席しているので良好であった。配慮を要する生 徒が年々増加傾向にあり、担任との連携が重要 になってくると思う。

6　進路指導について ・進路指導部との連携 パスポート項目及び選考基準の等の検討 ・大学見学会実施への協力と指導 オープンキャンパスへの積極的参加 高大連携、指定校推薦入試のシステムの理解 ・２年次のコース選択について 文理選択の指導 コース変更の指導 各コースの特色の理解 ・進路ＬＨＲでの積極的活用	A	コース選択については、生徒の将来への認識が まだ十分ではなく、文理選択で迷う場合が多く、 キャリアガイダンスの必要性を感じた。 資格試験に積極的に参加する生徒が多くなって いる。 パワー・英数のコース変更はあまりよくないと 考える。基本的に入学したコースで卒業する が望ましい。
7　学習指導 ・学力向上対策 個人懇談及び三者懇談の実施 各教科との連携 ・模擬試験の結果分析の徹底 ・小テストと宿題の実施 ・成績不振生徒及び保護者の召喚と指導の徹底	B	個人懇談は各担任が一年間を通じて実施いてい ただいた。 成績も全体としては向上している。今後さらに 成績を上げるように努力していきたい。

分掌名（　中学３年　）　　評価責任者名（　辻　　章　夫　）

分掌目標	・基本的生活習慣の確立、及び基礎学力の定着に向けた生徒指導。 ・保護者と学校の連携による家庭学習習慣の定着と自学自習力の育成。

重　点　課　題	評 価	成　果　と　課　題
1． ６カ年教育プランに基づく中３学年目標の設定と実践	B	上記の学年目標を設定し、学年団、及び教科担当の先生方の協力の下、その実践に努めた。
2． 基礎学力の定着に向けた、宿題・早朝テスト・補講習等の企画と運営	A	早朝テストは、国語・数学・英語の３教科について、毎週実施した。また、特進ｺｰｽは英語・数学の講習を、Ｕｐは補習と講習を実施した。
3． 高校進学に向けた進学特別補習の企画と運営	A	国語・社会・数学・理科・英語の５教科について、定期考査ごとに該当者を抽出し、１学期の中間考査後から、学年末考査の前まで実施した。
4． 学年関連行事の調整・行事予定の作成、および企画と実施	A	学年行事では、特に修学旅行の方面が、熊本地震の影響で急遽変更になったが、学年団の先生方の協力により、良いものをつくることができた。
5． 学力推移調査の結果分析と、学習指導面へのフィードバック	B	学力推移調査対策として、過去問対策を行った。また、結果の分析会で生徒の現状把握を行った。教科指導へのフィードバックについては、教科まかせになった。
6． 学年の３クラス間における横の連携と、学年団全教員間での情報共有による学年運営	A	組担任・副担任、および教科担当者間で、生徒の現状把握とその共有に努め、生徒の問題行動や悩みを早期に把握することで、早期対応に活かした。
7． 学年と各分掌（生活指導部，進路指導，入試対策部，各教科）との連携，および情報の共有	B	各分掌との連携については、学年の係りの先生を通じて、また、学年に係りの先生ががいない部署については学年主任が、それぞれパイプ役となって情報共有に努めた。
8． 保護者説明会，三者懇談，学級懇親会，授業参観，日々の連絡等を通した学校と保護者との密な連携	A	組担任・副担任を中心に、面談や電話を通して、保護者との連絡態勢を密にし、生徒指導に活かした。

分掌名（　中学２年　）　　評価責任者名（　山　本　　裕　司　）

分掌目標	・基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着に向けた指導。 ・保護者との連携による、家庭学習習慣の定着と自学自習力の育成。

重　点　課　題	評 価	成　果　と　課　題
1． ６カ年教育プランに基づく中２学年目標の設定と実践	B	学年担任・教科担当と連携し教育プランの設定と実践に努めた
2． 基礎学力の定着に向けた、宿題・早朝テスト・補講習等の企画と運営	B	国・数・英の早朝テストを実施し、基礎力の定着を図った。特進コースについては国、数、英の講習を実施した。アップは定期的な補習ができなかった。
3． 家庭学習習慣の定着に向け、日々の宿題や長期休暇中の宿題・課題の調整と実施	A	長期休暇には、各教科で課題を出し、提出率１００％を目指した。
4． 学年関連行事の調整・行事予定の作成、および企画と実施	A	琵琶湖合宿やスキー合宿の企画をし、学年団の協力のもと無事に終えることができた
5． 学力推移調査の結果分析と、学習指導面へのフィードバック	B	学年団で情報を共有し、懇談等で生徒の学習面の指導に役立てた。
6． 学年の３クラス間における横の連携と、学年団全教員間での情報共有による学年運営	B	組担任、副担任、教科担当者間で、生徒の現状把握がしずらかった。不登校生や問題をかかえる生徒が多くいた。
7． 学年と各分掌（生活指導部，進路指導，入試対策部，各教科）との連携，および情報の共有	A	各分掌との情報共有ができた。
8． 保護者説明会，三者懇談，学級懇親会，授業参観，日々の連絡等を通した学校と保護者との密な連携	A	組担任、副担任を中心に、面談や家庭との連絡を通して学校・学級運営に理解と協力が得られた。

分掌名（　中学　１年　）　　評価責任者名（辻 本　　俊 幸）

分掌目標	・ 中学１年生としての基本的な生活習慣の確立。 ・ 勉強と部活動の両立。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
中学１年生として、充実した学校生活の実践	B	日々の学習活動および部活動などを通して、生徒個々の自主的な活動の実践に繋がるよう、指導を心がけた。
自学自習力の定着	B	帰宅後に自分一人で勉強する習慣を身につけるために、学年からの課題を与え、取り組ませた。さらに、教科ごと・曜日別にで早朝テストを行い、自学自習力の定着につなげた。
オリエンテーション合宿・勉強合宿、スキー実習の企画と実行	B	それぞれの目的に即して、合宿を企画実行。中１では、特に集団行動を行う上で、協調性の大切さについても理解させることができた。
校外学習等の学校行事の作成と実行	B	「冒険教育」を通して、一歩踏み出す勇気を持つことの大切さを理解させることができた。９月の校外学習では、「奈良の歴史探訪」を通して、友人関係の構築やコミュニケーション能力の向上を目指した取り組みができた。
学年からの宿題、早朝テスト、補講習等の企画・運営	B	基礎力の定着を目指して、国語・数学・英語の３教科で実施したが、早朝テストでの不合格者・補習対象者が固定してしまった。
学力推移調査結果の把握と学年としての取組み案作成と実行	C	４月実施の学力推移調査結果を受けて、得点率の低い問題の原因を探りつつ、10 月実施分につなげた。特進・標準ともに、目標の SS への到達につながる具体的な取組が必要である。
学年会および授業担当者同士の情報交換の活性化	B	担任および学年団の教員には、意識的に連絡を密に取り合い、情報の共有に努めた。また、定期的に行う学年会では、組の現状報告などによって、情報交換の活性化が図れた。
保護者説明会の企画と実施	B	４月と１月に、目的に応じた形で保護者説明会を実施。特進クラスだけでなく、アップクラスの保護者の参加数が増えるようにしたい。

③コース

分掌名（　６ヵ年・特進　）　　評価責任者名　（　中森　明子　）

分掌目標	中高６年間を通じて生徒が将来の自己像を描きつつ、自律的学習者となれるよう指導を行う。各学年の学力向上策の促進、提案を行う。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
コース再編 平成３１年度の特進コースとパワーコースの合体にむけた取り組み	C	次年度以降、継続審議、取り組みが必要
六ヵ年での補講習プランの検討 中１から高３まで 6 ヵ年での補講習プランをシステム化。特に高校の通年補講習において他コースとの連携・協力を図る。	B	検討したものの、学年に委ねられている、通常の授業が他コースとの合体など、学校全体で掛からないと不可能であることが判明。
行事・企画 学校の行事と６ヵ年一貫コースの行事の精査・改善	B	前年度より大きく変更したものはなし
キャリア教育 中学校総合学習の充実と高校進路学習の充実	C	取り組めず
大学入試改革・「新テスト」の情報収集と対策 大学入試改革・「新テスト」に対応する為の情報収集と対策を協議する。	B	情報収集は進んでいるが、いまだ不透明な部分が多く、対策の協議は進まず
各学年の学力向上策の促進、提案 各学年・各コースにおける学力向上策を協議。	B	各学年・各担当者に委ねられた状態。協議は進まず。
生徒満足度の向上 生徒満足度が学校全体に比べてやや低い原因を分析、向上策を協議	C	協議は進まず

分掌名（進路指導部高大連携係（プレップコース））　　評価責任者名　（　杉田　敏幸　）

分掌目標	○生徒の現状に即した連携・指定校推薦のシステムの企画運営。 ○学力を中心とした生徒の総合力を伸ばすための具体的施策を行う。 ○推薦入試にとらわれない新しいプレップコースのあり方を考える。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
連携･指定校推薦入試枠にとらわれない新しいプレップコースのあり方について研究する	C	連携・指定校制推薦枠を利用して大学進学した生徒は 124 名で在籍数の 24.2%。残りの生徒に対する有効な戦術は確立できなかった。
生徒の現状に即したパスポート項目および基準の検討	B	各項目とも問題があり、見直す必要がある
生徒の現状に即した連携･指定校制推薦入試の最終選考方法の検討を継続する	A	現行ルールが確立して、4 年目。ルールの文書・冊子化を進めた結果、教員・生徒にも周知徹底できるようになった。
プレップ科の授業内容の工夫。とりわけ高３の２学期と高２の３学期のカリキュラムに新しい工夫を導入する	C	プレップ科の授業内容は、今後も創意工夫が必要である。
大学見学会の企画・運営	A	高 1・高 2 の大学見学会、および希望者による女子大見学会は、ほぼ形が完成してきている。
連携大学との良好な関係維持のための新たな工夫。未来型の連携の形を研究する	B	まだまだ工夫の余地がある。大学側からの提案だけでなく、こちらからも連携内容に対する提案をしていく必要がある。
生徒に対するプレップの内容の周知・徹底 ３年間のビジョンを明確にさせる	A	プレップコースに関する情報は、資料をまめに作成し、進路説明会・プレップ会議・プレップ科等を利用して適切に提供できた。
教員に対するプレップの内容の周知・徹底	A	各学年プレップコースの担任には徹底できたと思うが、他の先生にも情報を発信する必要があるのではないか。
プレップコース生徒の具体的学力増進策を講じ、成果につなげる	C	各学年とも、受験につながる科目については放課後の講習を実施してもらったが、どうしても希望制になってしまう。
家庭学習･自主学習できる生徒にするための具体的方策を講じる	C	新しい方策を打ち出すことはできなかった。
学校全体に対して､プレップコースを理解してもらうための適切な情報発信を定期的に行う	C	教職員全員に対する報告を、今年度はできなかった。

分掌名（　　英　数　　）　　評価責任者名（　　杉　本　智　也　　）

分掌目標	各学年の生徒に応じた学習指導を実施する。 国公立大学への合格者をふやす。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
学力向上に向けての指導の徹底	A	国公立大学の合格者が前年度の８人から１６人に増えた。また関関同立の合格者は３６人（関大は２４人）だった。（いずれも実人数）
講習の充実	A	放課後，長期休暇前の講習を各学年で立案し，効果的に実施できた。
模擬試験の分析 生徒個々にまちがった箇所を確認させる	C	分析や対策はできなかった。
大学見学会の実施	A	１年生で大阪市立大学の見学会を計画し，実施した。生徒の印象もよかった。
二年次からのコース選択（１年）	A	面談を充実させ，各生徒のコース選択を生徒と共に考えた。おおむね満足していると考える。
個人面談の充実	A	各学年とも二者面談や三者面談を充実させ，生徒個人の把握に努めることができた。
情報の共有化	B	週１回英数コース会議を行い，所属学年だけでなく，他学年の事案も話し合い，情報の共有化を図った。

分掌名（　パワーコース　　）　　評価責任者名（和気　康弘　　）

分掌目標	東大、京大、阪大をはじめとする難関大学への合格者の輩出

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
①　自立した学習者の育成	A	特に１年生、２年生においては手帳の活用を始め積極的にがくしゅうにとりくんだ生徒が多かった。
②　分掌目標大学への合格者、在籍人数の 25%～30%	C	特に今年度についてはさんざんな結果だった。ただし、コースの取り組みの問題ではなく、生徒の資質の問題が大きかったと分析する。
③　生徒の学力向上と希望進路実現に向けた指導の充実	B	３年生以外は、特に１年生については指導がうまくいった。結果成績も大いに向上した。新たに取り組んだ企業研究も成功した。 今後はオリエンテーション合宿などの取り組みも必要と考える。

④進路指導

分掌名（　進路指導部　　）　　評価責任者名（　畑中　広　）

分掌目標	生徒個々の学力向上と進路実現をサポートすることで生徒満足度を上げる。また、伝統ある進学校の校風をさらに醸成し、本校の京阪神大学・関関同立等難関大学への合格実績の積み上げを図る。	
重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
各コースと連携して「進学実績」向上のための具体的施策を行う ①国公立大学、とりわけ京阪神、大阪市立大学・府立大学への合格者数を増やすための手立てを考え実行する。 ②関関同立、とりわけ関西大学への合格者を増やすための新たな手立てを考え実行。 ③産近甲龍、とりわけ近畿大学への合格者を増やすための手立てを実行する。 ④上記を支える生徒の学力増進策を再検討。 ⑤進路説明会・進路ＨＲの内容を検討する。	B	①国公立大学型の各コース間で共通・共同で行える事柄を提案し調整を試みたが、コースの独自性の壁が厚く調整はすすまなかった。 ②③初めて９月に関西大学入試説明会を実施、全コースから計 80 名ほどの生徒が参加した。関関同立・産近甲龍の資料揃えを充実させた。関大と同志社大の合格者が増加した。とりわけ関西大学合格者は 55 名から 71 名に増えた。 ④プレップコースの生徒に対し、安易に指定校制推薦に流れないような指導がやや強まった。⑤進路説明会の内容を改定した。
データの集積・分析・提供の促進 ①進路指導に関する大学・専門学校、資格取得・就職関係の最新の情報やデータの収集・整理に尽力する。 ②生徒の学習状況・進路志望動向を把握して、更なる成績向上の手立てを考える。 ③進路指導に関する内外の資料・データを活用して、教職員に対して有用な進路情報の提供を行う。 ④模擬試験結果の分析会を定期的に実施し、組担任・各教科担当先生に科目別・分野別学習到達状況を提供する。 ⑤進路指導部と各コースとの連携、および各コース間の情報共有の促進。	C	①②ベネッセや河合塾の入試分析会等にまめに出席して、担任の先生の生徒指導に役立つ冊子等を入手して配布した。 ③④データの集積はきちんとできた。しかし、スタディーサポートや模試結果の分析や効果的な資料提供はすすまなかった。 ⑤国公立型コースの行事連携を提案したが進展がなかった。
プレップコースの「パスポート項目」の見直しと大学との連携・見学会の充実をはかる	C	高１摂南大学見学会が不成立、またプレップ項目の見直しも進展がなかった。
進路指導に対する内外の評価の向上を目指す ①生徒にとって親しみやすく相談のしやすい進路指導部になるよう工夫する。 ②生徒・保護者への学習・進路情報提供を促進する。 ③総合的に、進路指導に対する保護者・生徒満足度を向上させる。	B	①②③進路指導室前に大学等 HP 検索ができるデスクトップ型 PC を 2 台設置した。昼休みや放課後に利用する生徒が増えてきた。
アクティブラーニング研究・導入を推進し、生徒の成績向上を図る	A	アクティブラーニング社と提携が決まった。また新分掌 ID が成立して研究を引き継い

		だ。
進路指導部発信の Global 教育・キャリア教育について研究を進める	C	進展しなかった。

分掌名（　進路指導部　学習指導係　）　　評価責任者名（　石川　泰久　）

分掌目標	生徒が自分の将来に夢や希望を抱き、自分の意思で主体的に進路を選択する能力を育成する。また希望の進路に進めるよう、模擬試験の結果活用や補講習・講座などの充実を図り、学力向上をサポートする。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
中学学力推移調査 ・年２回実施の準備・実施 ・データの活用 ・分析会の設定	B	問題なく実施できた
高１（新入生）オリエンテーション ・各教科から資料を取りまとめ配布 ・配布するだけで終わらないように活用	B	配布するだけになった
進路ＬＨＲの内容の見直し ・進路ノートの内容 ・ノート以外の企画（講演会など）	B	H29 年度より、進路ノートの購入をやめることになった
高１校内模試 ・校内模試（年３回）の準備・実施 ・データの活用 ・分析会の設定	B	実施はできたが、実施時期・内容についてはさらに検討が必要
高２校内模試 ・校内模試（年３回）の準備・実施 ・データの活用 ・分析会の設定	B	
高３校内模試 ・校内模試（年５回）の準備・実施 ・データの活用 ・分析会の設定	B	
スタディーサポート ・高１高２、年２回の実施 ・事前学習教材の準備と活用の案内 ・データの活用 ・分析会・結果活用勉強会の設定	B	
外部模試 ・案内と取りまとめ ・データの活用	B	

進路だより ・大学入試情報、大学学部学科情報など生徒保護者に役立つタイムリーな情報の発信	C	発行していない
放課後の補講習 ・放課後の補講習実施のとりまとめ ・学年ごとに一覧表作成、学年・コースに実施が充実していないクラス・科目の改善を要望	C	学年・コースに任せている
講座制授業（夏期講座） ・教員からの開講講座のとりまとめ ・時間割の作成、生徒への要項の配布 ・申し込みの受付・講座ごとの名票作成	C	一部の先生方が全てを担当している
ファインシステム ・模擬試験分析ソフト、ファインシステムの管理と各教員が使える環境作り	C	十分に活用できていない
進研模試デジタルサービス ・生徒・教員の活用促進	C	十分に活用できていない

⑤教務

分掌名（　高校　教務部　）　　評価責任者名（　栗栖　有文　）

分掌目標	学校業務の円滑な運営に寄与しつつ、行事内容の改善、業務内容の改善を計る。

重点課題	評価	成果と課題
Ⅰ部長		
①教務に関する事項についての連絡調整及び指導助言	A	４年目を迎え、段取りよくできたと思う
②教務部会の召集	B	行事予定のため、開催できない時があった
③校務に関する改善案の提言	A	いくつの改善につながる立案ができた
④入学試験の準備・運営	A	大過なく対応できた
⑤教育計画の実施に際しての調整、指導助言	B	転換期を迎え、理路整然とは行かなかった
Ⅱ行事企画運営係		
①行事について情報収集・検討・集約	B	行事を追いかけるので精一杯
②各行事の企画・運営	B	〃
③各行事についての保護者連絡	A	連絡準備は早い目に対処できた
Ⅲ修学旅行係		
④各種情報収集・検討	B	旅行者との連携をもう少しスムーズにしたい
⑤高２学年団への情報伝達・指示	B	やや学年に任せた箇所があった
⑥高２保護者への内容説明	A	学校・学年主任・旅行社と共に対応できた
⑦現地での交渉・各種準備	A	現地で臨機応変に対処できた
⑧次年度に向けての検討	B	検討はしたが一層の準備は必要
Ⅳ時間割係		
①新年度時間割作成 授業内容・選択科目・教員の都合等の制限項目が時間割作成に困難さをもたらしている。制限項目の減少に向けて提言を行う。	C	選択科目が多く、また時間割に対する制限（分掌・クラブなど）もあり、時間割作成は困難を極めている。 また、講師の先生方の制限(白コマ)が多いのも時間割を組むうえで困難である。平成29年度に向け、特に講師の先生方には教務部長を通して提言を行ってもらっている。
②通常時間割変更 『補欠は罪、振替えは義務』をスローガンに自習授業の撲滅に向けて提言を行う。	B	例年通りである。振替がされるが、補欠授業は多く、補欠授業に対する不満も多い。 しかし、未だに事前の出張・欠勤等が分かっていながら振替をしない先生もおられるので、今後も徹底した振替依頼を提言していく。
③定期考査時間割作成 教科間に不公平感が出ないように努める。	B	教科間に不公平感が出ないよう、５回の定期考査（中間は４日間、期末は５日間）において、どの教科もなるべく日程を変えて作成し

		た。不満の声は激減している。
④考査監督作成 教員間に不公平感が出ないように努める。 監督の交代は教員間の個人的やりとりで解決する仕組みが浸透してきたため、円滑に遂行できている。	B	常勤・専任の監督時間、講師の監督時間を公平になるように作成するが、考査前～考査当日にかけて何らかの事情が発生するので結果的に監督時間の不公平が出てくる。そのため、必ず不満はでる。しかし、監督の交代は個人間の考査監督のやり取りが浸透してきたため各先生方で積極的に行ってもらっている。
⑤考査問題管理・授受 考査問題提出期限を設け、考査前日に問題提出を確認するため、トラブルは減っている。 先生方の個人的ミスに対しては、その場での指導と啓発活動に励む。	B	考査実施日２営業日前の問題提出を促す貼紙の効果で問題管理は問題なく行えた。問題授受においては、各部屋に監督表を配布したので先生方の監督表の確認ミスは激減した。考査提出状況では、解答用紙の綴じ方をクリップに統一したため答案回収は時間短縮が行えた。ただし、欠試生徒・欠番生徒の解答用紙の挟み忘れ、裏表紙の付け忘れがまだある。７号館への答案も一括して運搬するように変更したので多くの先生の負担軽減につながったと思う。
⑥行事に伴う時間割変更 消滅する授業が復活する場合にミスが発生しやすい。復活した授業担当者が不満を言うことに対しては、強く指導する。	B	学校行事により、授業がなくなる場合よりも、授業が復活する場合の方にミスが発生する。復活する場合は必ず前日に変更ボードに目立つ色で記載、該当教員に連絡するようにした。そのため、ミスは減少したが授業が復活する事では不満を言われる事はまだある。しかし、業務を円滑に行うためにも復活授業をお願いする事と、今後も授業復活がある事の周知徹底を提言していきたい。
⑦時数計算表の作成	A	あらかじめ行事予定の先生から行事予定表をデータとして貰っているので、特別な行事があるとその日のうちに単位換算していたため特に問題はなかった。
⑧職員会議・行事時の教員の出欠確認 会議等の理由無き欠席者に対して何らかの措置をとらないのなら、出欠確認は不必要と思われる。	B	職員会議・行事の欠席者に対して何らかの措置もないので、今後も出欠確認作業は行わない予定である。
⑨欠勤･遅刻等の届けの確認 欠勤・出張等について、常習的に届け出ノートに記載しない、電話連絡が遅い等の教員に対しては強く指導する。	A	時間割係りの後方に欠勤・出張等を記載してもらうノートを置いているが、まれに記載がない場合がある。欠勤・遅刻等の届けを提出したら、それでよいと思い込んでいる教員が

		まだいるので、届出ノートに記載してもらう事を徹底して提言していきたい。当日欠勤等の電話連絡は早めにしてもらっているが、これもまれに朝礼直前に連絡が入る事があり、自習監督が充てられない事があるので、8 時までの連絡を徹底して提言していきたい。
Ⅴ書類帳簿・教科書係		
①教務日誌 教務日誌は漏れのないよう万全を期す。	C	来年度は別の対応を考えています
②掲示物 各種掲示物の整理整頓を期す。	A	定期的にできました
③調査書・成績証明書等の発行	A	問題ありません
④各種書類の作成・発注・管理	A	問題ありません
⑤指導要録作成補助	A	問題ありません
⑥教科書・副教材の採択指示・点検 教科主任と担当者での二重のチェック体制を取り、万全を期す。	B	発注は問題なく済みましたが書類作成でミスがありました
⑥教科書・副教材の採択報告・発注・管理	A	問題ありません
⑦入試資料の作成	A	問題ありません
Ⅵ庶務・内規係		
①教室配当の決定	B	新校舎完成まで我慢する
②教員配置の決定	B	4／5 の移動に何とか間に合っている
③パーソナルロッカー搬入・設置・廃棄手配 生徒のパーソナルロッカーについて、事務局に指示する。	C	事務局からの段取りの不手際で高 3 学年が混乱した
④体育大会当日の受付とその準備		保護者会にお任せします
⑤文化祭当日の受付とその準備	C	チケット無しでも入場できるので必要ないか
⑥高校入学試験関連の用品の手配	C	時間割係でやっていただいています
⑦破損届受付及びその修理依頼	A	
⑧消耗品の補充	A	
⑨教職員に対して、内規の周知・徹底	B	新任教員研修会で説明
⑩特別指導実施報告書の周知	C	やっていません
⑪内規の内容の検討・見直し	B	心のケアを必要とする生徒の規定は要改定
Ⅶカリキュラム		
①保護者対象説明会にて解説	C	実施してません
②新任教員へ説明	A	
③教育実習生へ説明	B	

④次年度カリキュラムの検討	A	かなりやっています、ぜひ改定したいです
⑤教科単位数の点検	A	やっています　書類帳簿係に連携して実施
⑥調査書単位数の点検	A	やっています
⑦教員へ研修会等の伝達	B	教務白板に掲示
Ⅷ保護者会係		
①保護者会に関する事務	A	滞りなく対処できた
②各組学級委員の募集補助・各種連絡	A	〃
Ⅸその他		
①インターンシップ学生受入れ手続き・運営	A	インターンシップ学生の応募が無かった
②各種印刷物の作成・配布	A	滞りなく対処できた
③芸術鑑賞会の立案・外部との交渉	A	生徒・保護者にも好評であったと思う

（　中学教務部　）　　評価責任者名（　末金　　和夫　）

分掌目標	全人教育における生徒の人間力の向上に繋がる行事等の計画と実践。 ６年間一貫教育における生徒の学力向上のための方策の計画と実践。

重　点　課　題	評価	成果と課題
日々の行事の運営 行事の計画と実行・改善 （各式典、体育大会、文化祭、合宿など） 中学から高校へスムーズに進学できるための方策の検討	B	概ね当初の予定通り行事の運営は行えたと思う。ただ、中学から高校への進学は決してスムーズとはいいがたく、今後の検討課題である。
教務係との業務の連携、運営 行事企画運営（日々の行事の確認、各行事の企画・整理、） 時間割（日々の時間割の変更・補欠の確認、考査に関する事項の確認、考査監督表の作成、問題の管理と答案の授受） カリキュラム（現行のカリキュラムの改善点、次年度以降の考察、総合学習の検討） 書類帳簿（教育委員会提出用書類作成、教科書類のとりまとめと発注、転学生徒用書類の作成、教務日誌の作成、指導要録の作成指導、書類帳簿備品の整備、評価・評定の記入依頼） 庶務（物品物・消耗品関係の点検、各教室備品関係の点検、各教室の配置、職員室の配置の検討）	A	教務係りの先生方との業務の連携、 運営はしっかりできたと思う。
教員間の情報の共有・連携 （生徒の事故、トラブルの把握、対処、防止）（成績面での現状の認識、問題点の共通認識、改善策の考察）	B	中学の職員室内や生活指導部、主任 会を通じて、教員間の情報の共有・連携はスムーズであったと思う。
中高教務の連携（日々の業務の情報の共有化、問題点の共通認識、解決策の模索）	C	日々の業務の共有は、連絡が密でな かったこともあり、できなかった部 分が多かったと思う。
会議や連絡会について （伝達内容の確認、懸案事項の点検、考察）	B	概ね、よかったと思うが、高校の進級に関する変更については、今後の 検討事項である。
教務会の円滑な進行ついて （教務としての意見の取りまとめ、検討事項の考察→決定事項の報告）	A	概ね、円滑に行えたと思う。先生方も積極的に意見を述べてくれた。

コース再編の目標の明確化、中学校での取り組みの具体化 （魅力ある生徒の育成）（進路学習の充実） （読書指導の充実）（早朝テスト、補講習の充実）	B	教頭先生を中心にコース再編の目標は明確化できたが、具体的な取り組み に関しては、これから検討していかな ければならないところもある。
六ヵ年を見据えた教育の充実	B	まだ、まだ検討しなければならない 課題ある。
校外学習および総合学習の充実と積極的な取り組み （進路学習、社会・音楽・美術関係を含む）	A	学年を中心に概ね、取り組めたと思 う
中学入試の実施と入試実施に関する諸問題の検討 （体験学習会・模擬テストを含む）	B	体験入試と模擬テストを２日に分けたり、２次入試の日程の変更など を概ね、できたと思う。
保護者会との協力	A	概ね、保護者会の連絡等、協力的にできたと思う。
部活動面の充実に繋がる取り組み（クラブの再編や中１の 入部時期など）	B	部活動は充実しているが、クラブの 再編や中１の入部時期などの課題解決はできなかった。

⑥生活指導

分掌名（　生活指導部　）　　評価責任者名（　　福　井　　篤　　）

分掌目標	生徒に規範意識を持たせる指導	
重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
・生活指導マニュアルの実践 本校全職員による統一された指導の実践	C	本来、教員として、生徒に指導しなければならない事象を、すべて生活指導部に丸投げする先生がおられる。 まずは、ダメなものはダメと指導していただく必要がある。
・重点指導課題 頭髪（奇抜な形）・服装（シャツ・化粧） 遅刻（5 分前行動）・携帯（校内使用） 考査規定の遵守（不正行為）	C	女子の前髪カールや化粧、遅刻といったことが守れていない生徒も多い、生徒に心からの意識改革を続けさせると共に、先生方が特に女子生徒に甘くなりがちなのを防がねばならない。 不正行為がどうしても起こるが、事前の注意喚起を徹底させなければならない。 それと共に答案改ざんもあり、各先生方が、スキャナで答案用紙を取るなとして、対策をしていることをもっと生徒に徹底させなければならない。
・生活指導部の役割の明確化 担任および学年中心の指導体制構築 生活指導部は指導の助言とサポート	B	学年主任が中心となり、色々な事にあたっていただいているが、中学は学年中心となり対応していただいているが、高校は学年の先生の中で、指導に対し、消極的などの状態で生活指導中心の指導となっている場合が多い。
・生活指導部組織改編による課題 本館と 7 号館との分立･人員削減による影響 担任外の先生、女性教員が少ない為、部長、（中高）主任、（高）主担だけでは対応しきれないほどの多種多様の問題行動	D	組織改革の中で、中高共に人員が不足していたが、特に中学及び女子教員、そして担任外の先生が不足していることにより、非常勤の女性の先生に業務をお願いし、その方々に過重な負荷がかかっている。出来るだけそれを防ぐ抜本的な人事が必要。

⑦入試対策

（入試対策部）　　**評価責任者名（　相本　秀彦　　）**

分掌目標	**建学の精神や学校内外の環境から共学校としての新たなコンセプトを打ち出し、安定した生徒募集につなげる。**

重　点　課　題	評価	成果と課題
①　「学校案内」（ポスターを含む）等冊子の作成について	B	＊まずまずとも言えるが、さらに完成度の高い「学校案内」を作製したい。 ＊「学校案内」の完成時期を早めたい。
②　ホームページの活用および効果的な広報媒体の研究	C	＊ＨＰを一新させたい。問題点が多々ある。
③　中学体験学習会・プレテスト会の円滑な運営と見直し	B	＊体験学習会からプレテストにつながるような営業ができた。 ＊円滑に実施できたが、さらに考えなければならない点がある。
④　入試説明会の日程、内容の吟味とプレゼンテーションのあり方についての研究	B	＊説明時間の短縮の検討。 ＊上宮高校らしさが出る説明会の内容をさらに検討しなければならない。 ＊プレゼンテーションの技術をさらに向上させなければならない。
⑤　塾対象説明会についての検討	B	＊学校での実施を考えたい。 ＊日程を変更しての実施を考えたい。 ＊説明時間の短縮を考えたい。
⑥　塾・中学校訪問を中心としたより効果的な営業戦略の研究	B	＊ほぼ前年どおりのことはできたが、営業戦略まで考えられなかった。 ＊入学生徒の出身塾、在校生の現状報告、進学先をデータベース化したい。
⑦　重要情報の学内への公開、情報の共有化を図る	B	＊職員会議を通して上宮の外部での評価を報告する機会がなかった。 ＊入試対策部の中では情報を共有できた。
⑧　中学入試の日程等に関する提案	B	＊現実的な少子化の影響を受け、午後入試を実施したが、あまり効果的ではなかった。 ＊基準も含めて再検討の余地がある。

⑨　建学の精神を中心に据え、共学校としてのブランドコンセプトを構築する	B	＊上宮中学・高等学校のコンセプトをさらにはっきりと提案することが必要となる。 ＊大学進学実績をアピールできなかった。

⑧保健管理

（ 保健管理　 ）　　評価責任者名（　蟹　山　喜　代　美　）

分掌目標	心身の健康を保持増進させ、より健康な生活を築いていこうとする意欲と実践力を育てる。

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
１．生徒の定期・臨時の健康診断の計画及び実施	B	学校保健行事として各分掌と連携をとり、協同して実施することができた.
２．教職員の健康診断の計画及び実施	B	各分掌と計画通りに行うことができた。教職員の健康診断受診率は高い メンタルヘルスチェックの結果について検討が必要である
３．心疾患・アレルギーなど身体的配慮を要する生徒及び配慮・支援を要する生徒への対応、情報の共有	B	保健調査票、宿泊行事の事前アンケートからの情報を担任、学年、と共有することができた。今後も早い段階での把握に努めたい
４．学校管理下における生徒への救急処置	B	生徒の救急処置は、内科 3,254 件、外科 2,189 件、相談 951 件　合計 6,394 名の来室があった。近年、増加の傾向である。
５．性・いのちの教育及び思春期教室の開催	B	「いのちの教育」実施後のアンケートから９割の生徒が、いのちの大切さを理解していた。
６．疾病及び感染症の予防	C	感染症に対する保健指導が十分ではなかった　インフルエンザの猛威に学級閉鎖もあった。
７．宿泊を伴う学校行事における生徒への事前指導、関係機関への連絡及び引率	B	事前に該当生徒の個別指導を行い、その結果を、業者へ連絡することが実践できた。
８．日本スポーツ振興センター事務手続き	B	学校災害給付金の内訳は、中学 337, 522 円、高校 4, 477, 138 円であった。今後も速やかな請求を図り、生徒に還元したい。
２．生徒の定期・臨時の健康診断の計画及び実施	B	学校保健行事として各分掌と連携をとり、協同して実施することができた.

⑨教育相談

（　教育相談　）　　評価責任者名（　伊藤　隆　）

分掌目標	個々人のスキルアップ及び支援体制の確立を目指す。

重　点　課　題	評価	成果と課題
①相談業務 ・生徒・保護者へのカウンセリング ・教員へのコンサルテーション ・メールによる関係づくり ・学校への不適応を呈している生徒の把握（案） →欠席日数のチェック	A	○カウンセリングやコンサルテーションするに当たって，更なる研修・研究を必要とし，それらを実施していく方向である。 ○不登校状態を呈している生徒の把握（案）に関しては，担任・教務との連携をさらに考え，実施していく方向である。
②学校に行きづらい子どもの「親の集い」	A	○保護者の心理的安定に伴い，保護者の子どもを支援するスキルの獲得が進んでいる。不登校経験者の参加により，保護者の子ども理解が進んでいる。
③発達の偏りを持つ子どもの「親の会」	A	○保護者同士の交流が深まり，子どもを支援するための情報交換が進んでいる。当事者の参加により，保護者の子ども理解が進んでいる
④保護者・教職員のための勉強会	A	○外部講師から青少年の自立をテーマに研修を実施し，概ね好評であった。行事が多く，教職員の参加が少ないのは残念である。
⑤教育相談係 HP の活用	B	○HP が開設され，現在のところ相談申込時に利用されているが，今後は活動実施内容や広報を中心に掲載したい。
⑥広報 ・ 教職員向け…カンファレンス，「親の集い」，「親の勉強会」「保護者・教職員のための勉強会」といった係活動の認知 ・ 保護者向け…「親の集い」，「親の勉強会」「保護者・教職員のための勉強会」といった係活動の認知 ・ 生徒向け…オリエンテーション時における係活動の認知	A	○教職員向けは職員会議での連絡，保護者向けでは紙媒体だけでなくメール配信により広報ができた。
・ 外部向け（案）…「保護者・教職員のための勉強会」の案内を塾を介して上宮に関心のある保護者への伝達及び近隣の公立小・中学校を介して保護者への伝達	A	○外部向けの「保護者・教職員のための勉強会」の広報は，入試対策部と連携し，近隣の中学校に通う保護者へ行った。その結果，４校の学校から数名の保護者が参加された。今後，小学校にも広報の範囲を広げたい。

⑦外部機関（医療，外部相談所など）との連携	A	○面接で医療が必要と思われた方々を連携する医療機関につなげることができた。
⑧保護者会との連携 ・保護者のニーズに応えられる講演テーマであれば「保護者・教職員のための勉強会」での連携が可能	D	○今年度は保護者会と連携が取れなかった。
⑨保健管理部門との連携 ・事例の共有化 ・学校精神保健への協働	A	○保健室から 1 人，係に配属され事例の共有化が進んでいる。今後，さらに学校精神保健の充実に努めたい。
⑩学年会との連携 ・情報の収集 ・不登校や発達の偏りのある生徒の担当者会議の実施 ・支援シートの作成	A	○不登校や発達の偏りのある生徒を持つ担任との連携は進んでいる。また学年団と連携をし，担当者会議の実施も進んでいる。 ○今年度は 4 名の支援シートの作成を行った。今後は人権とともに作成に取り掛かりたい。
⑪「不登校を考える会」会報の配布	A	○配布する他，配布した際，教職員から生徒・保護者に関する種々の情報を入手でき，活動に役立てることができた。
⑫大阪私学カウンセリング研究会の業務	B	○平成 25 年度から 28 年度とカウンセリング研究会の当番校を担った。現在の人員，授業時間の多さから業務が滞ることがあるのが現状。 ○本校から大阪私学全体へ研究会の情報を発信し，さらに充実した研究会を目指すようにしたい。

⑩データ処理

（　データ処理室　）　　評価責任者名（　西脇　圭二　）

分掌目標	データ処理業務の遂行 入力システムの安定を処理速度の向上 学校業務効率化のためのプログラム開発	
重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
入力システム等の新規プログラムの作成	A	毎年バージョンアップができている。
入試業務の遂行	A	問題なく、処理のスピードアップもできた。
通知表を含む考査データ等の担任への配布	A	例年通り。

⑪生徒会

分掌名（　生徒会　）　　評価責任者名（　　堀田　泰彦　　）

分掌目標	学校行事・生徒会業務の内容と効率の見直し

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
生徒会予算の健全化	A	今年度の繰越残高 500 万円の目標を達成できた。次年度も維持していきたい。
上宮フェスタの内容の見直し	A	体育の先生方のおかげで間延びすることは無く予定通り終えることが出来た。次年度以降はグラウンドの関係で実施しないことになった。
体育大会の運営の体系化	B	種目の見直し、運営のやり方を多少なりとも見直すことが出来た。次年度へ向けての進める事が出来た。さらに円滑にかつ、安全に実施していきたい。
文化祭の運営の体系化	B	ＦＡＱの作成配布により例年通よりは、担任教諭の規範統一が出来た。さらに内容を吟味し生徒も含め、意識を高めていきたい。
その他生徒会管轄の業務・行事の見直し	B	クラブ予算の早期給付ができるようになった。次年度はさらに早めていきたい。朝の挨拶運動は生徒からの要望で次年度より中止することにしたが、生徒会の存在意義を考えると、続けてもいいかと思われる。

⑫人権教育

分掌名（　人権教育　）　　評価責任者名（　松野　正淳　）

分掌目標	共に育む人権（お互いを思いやる気持ちを大事し、共にいたわり、痛みを分かち合いながら歩もう）

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
中学校１年人権教育ＬＨＲについて 入学時「いじめ」についてのアンケート実施 ２・３学期に「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。
中学校２年人権教育ＬＨＲについて 学期ごとに「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。
中学校３年人権教育ＬＨＲについて 学期ごとに「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。
高校１年人権教育ＬＨＲについて 入学時「いじめ」についてのアンケート実施 ２・３学期に「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。
高校２年人権教育ＬＨＲについて 学期ごとに「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。
高校３年人権教育ＬＨＲについて １・２学期に「いじめ」アンケート実施	B	担当・学年の御協力を得ることができました。計画通り実施。実践報告はPenta200の人権教育ホルダーに全て報告済。
私学人研　第４部会　について	A	積極的に参加し、交流・研鑽に努めました。本校の人権教育の現状をミニ発表で各行の代表委員の先生方に報告いたしました。
年２回の人権教育教職員研修について（５月） （講師：上島　博さん） （内容：こどものレジリエンス（仮））	A	計画通り実施。教職員の多数の参加で研修を積むことができました。
年２回の人権教育教職員研修について（10月） （講師：上西起代美先生） （内容：セクハラについて）	B	教職員の多数の参加で研修を 積むことができました。

⑬図書・視聴覚教育

（図書館・視聴覚教育係）　　評価責任者名（　辻本　康夫　）

分掌目標	貸出し冊数を増やす・教室に入れない生徒の教室復帰に協力する

重　点　課　題	評価	成　果　と　課　題
女生徒のニーズを捉えて貸出し冊数の増加を図る。	A	今年も女生徒を意識した選書を重点的におこなった。その為、女子生徒の利用や貸出が増えた。女子大の赤本や看護系の本も含めて強化
高校３年生の参考書・問題集の貸出冊数の増加を図る。	A	最新の参考書・問題集を生徒・教職員・ネットから情報を得て購入した。また進路指導科から多数の赤本の寄贈を受け、貸出しも増加した。
7 号館の高 2 生徒の利用・貸出増加を図る。	B	昼休み中は、高２生徒は図書館に来れないので、 高２生徒の図書館利用が減った。特に、昼休みは利用度、貸出増加は困難である。放課後の利用はかなり増加した。
教室に入れない高校生の教室復帰に協力する。	A	今年も教室に入れない生徒の教室復帰に協力し た。今年は３名の生徒が教室に復帰できた。近年では画期的な復帰率といえる。生徒にとって図書館は居心地のよい環境になっているとは思 うが、それだけでは成果は上がりにくい。
教室に入れない中学生の教室復帰に協力する。	A	中学生の教室に入れない生徒の数は今年は１人 だったが、かったが、一人の生徒は新年度から、教室にも復帰でき、クラブ活動に参加を始めた。
中学生の利用・貸出しの増加を図る。	B	特に、今年の中学生の本の貸出が少なかったが、 中３の特定のクラスだけが多かった。広報活動を積極的に行いたい。
中学生の朝読に協力する。	B	朝読に協力するために、中学生が読みたい本を揃えるよう選書に注意する。また担任との協力関係を強める必要がある。

中学生にとってよい図書館としての環境の整備を図る。	B	図書館は、数の多い高校生が主体となってしまうので、中学生が利用しやすい環境を作りたい。 新年度から、中１～中３全クラスにおいて、朝読を実施する予定で、朝読用図書の選定・購入・整備に協力した。
中高生の図書館マイレージの参加を積極的に呼びかける。	B	今年もマイレージの参加者は、１００人を超過した。また１００P を達成した生徒も 30 人を超 えた。さらに上をめざしたい。9

（視聴覚・視聴覚教育係）　　評価責任者名　（　辻本　康夫　）

評 価 項 目	評価	課 題
図書館・視聴覚教育係による終業点検の当番の実施	A	全員が、視聴覚教室の終業点検を一週間ごとの当番制で終業点検を行った。
外部・内部の会議の利用の増加を図る。	A	かなり、増加をしたように感じられた。
視聴覚教材の充実（ＤＶＤ／ブルーレイ）	C	視聴覚教材の充実は、予算などの問題もあり、なかなか進捗していない。ブルーレイ機器が無いので、ブルーレイが使えないクレームがある。
視聴覚教室の機器の操作などのマニュアルの作成	A	視聴覚教室の機器の操作が、黒板前で行えるようになったのは、よかった。また以前のマニュアルが不備が多く、使いにくかったが、新しく作ったので、大幅にクレームが減った。